

事後評価報告書（タイ水害関連研究を対象とした国際緊急共同研究・調査支援プログラム
（J-RAPID））

1. 研究・調査課題名：「水害地域における網羅的な微生物解析と多環芳香族炭化水素の室内分解試験によるバイオレメディエーションポテンシャル調査」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター 上席参事官
藤田 信之

2-2. タイ側研究代表者：国立遺子工学・バイオテクノロジーセンター 酵素研究室 室長
Verawat Champreda

3. 総合評価：研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

4. 事後評価結果

(1) 研究・調査成果の評価について

50株以上の多環芳香族炭化水素分解菌を単離でき、現地の大学に保存されたことは成果として評価できる。

洪水によって汚染された土壌のバイオレメディエーションを目指すのであれば、なぜ、河川の底泥中の微生物の解析を行ったのか、洪水が起きた河川底泥試料から、多環芳香族分解菌を単離することは、どんな学術的意義があるのか、申請書には土壌から抽出することが計画されていたのに、その変更理由が不明であり、目的に対応しない研究内容になったように思える。今後、タイの研究者によって土壌微生物のデータが増えることを期待する。

(2) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

日本側から複数回の訪問がなされ、滞在日数も多い。

(3) 総合評価コメント

国際緊急共同研究・調査支援プログラム（J-RAPID）の趣旨に照らし、本事業は、緊急性という観点からはその成果を評価できないが、むしろ、長期的な視野に立った基礎研究に位置づけられると思われる。この研究を機に、微生物解析に関するタイとの連携体制が構築されたのであれば、本プログラムの成果としては無駄ではなく、バイオレメディエーションの実用化やタイの微生物資源探索など、今後の研究の展開を期待したい。報告書には、具体的な結果の記述が少なく、また、HP 公開資料と異なっているなど、成果報告書として完成度が十分とはいえない。未公表の成果も是非形にしてほしい。